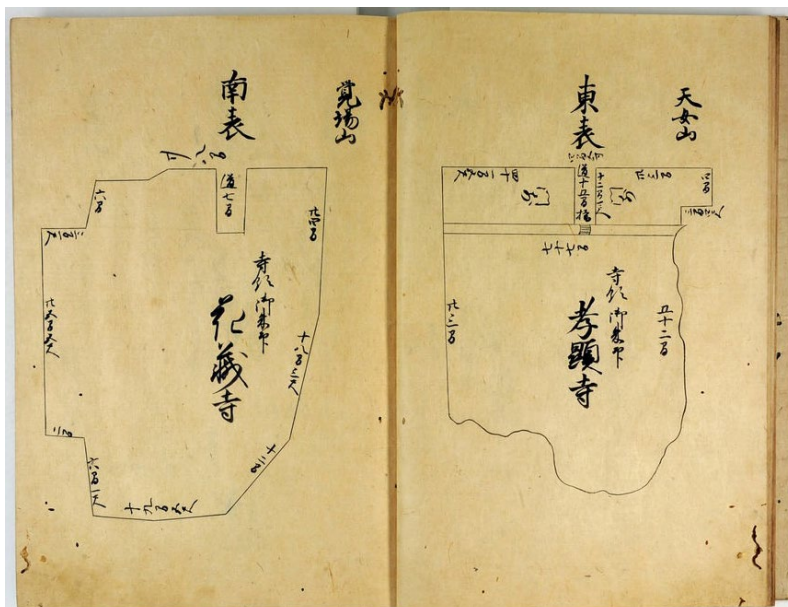


下総国結城から北庄へ引越した寺院

福井藩の史書「国事叢記」によると、1601年（慶長6）に結城秀康が入国したのにもない、曹洞宗孝顕寺をはじめ多くの寺院が下総結城から北庄（福井）へ寺基の移転や分寺を行いました。この時北庄へ分寺を行った孝顕寺の場合、「御入部（領主の領地入りの意）御供」として住持^{しゅんこく}舜国が召し連れられ、結城家の菩提寺として孝顕寺が建立されました。同寺はまた、結城の孝顕寺から後住を迎えることが藩において定められていた特別な寺院でした。

そのほかにも同年には曹洞宗白竜山乗国寺、法華宗結城山安穩寺、同宗関東妙国寺、真言宗光明山結城寺不動院、浄土真宗西念寺、臨済宗華蔵寺などが結城から寺基を移しています。



松平文庫「御城下絵図別記 寺社」(A0143-00493) 孝顕寺・華蔵寺部分